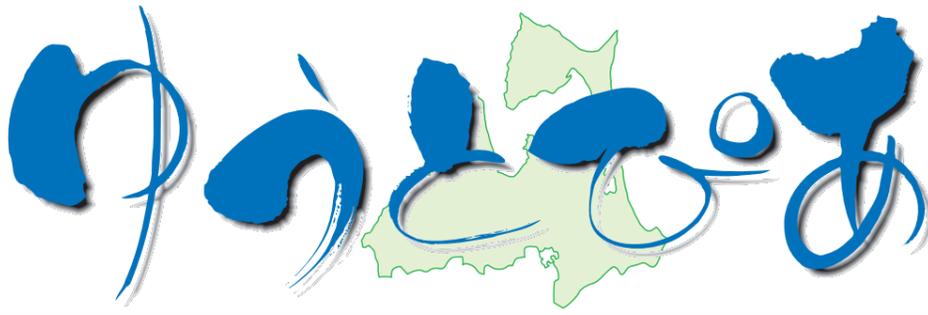


ENJOY CARE LIFE



社は
介護の必要な人の上に立たず、
その心に下りて為すを第一。
社会の必要の外に在らず、
その中に在りて為すを第二。

地域と介護の情報コミュニケーション誌



2017年3回発行
Vol.61

3月号

FREE PAPER

〈発行所〉社会福祉法人 楽晴会
〈発行人〉齊藤 淳
〈企画編集〉楽晴会広報委員会
〒033-0041
青森県三沢市大町二丁目6-27
TEL.0176-53-3550 FAX.0176-53-2480
E-mail:wmaster@rakuseikai.or.jp
昭和58年創刊

アクセスしてみて!! <http://www.rakuseikai.or.jp>



昨年8月下旬に、待ちかねた楽晴会多世代交流センターが完成した。
小川原湖畔の奥まった閑静な場所に、木造二階で造られました。役員等の福利厚生や、児童・障害児者等のレク活動を通じたICFの推進などを目的とした多世代の交流センターです。
楽晴会では平成二十二年四月から障害者の就労支援の事業を創設、平成二十四年六月からは児童デイサービスも始まりました(現在二ヶ所)。
いずれもとても多くのことを障

害児者は我々に語りかけてくれますが、その子供達や障害者の居場所が豊富にあるわけではありません。
また楽晴会では、地域福祉に汗する役員等の福利厚生を、創立五十周年を期に、一層進め、经营理念に謳われた職員の幸福追求を力強く推し進めております。
このような見地から地域の素晴らしい資源である小川原湖にバーベキューをやって、海水浴をして、寝泊りできて、しかも高齢者も泊れるようバリアフリーの通称「小川原湖ロッジ」が完成しました。
今年の夏はロッジしてくださいね。

★当会初★ 多世代交流センター 『小川原湖ロッジ』

ロッジする？

多世代交流センター利用感想



女子会、最高だよ♪

三沢老人ホーム 笹 倉 悠 史
昨年の九月十五日、多世代交流センター・小川原湖ロッジに、三沢老人ホーム・ぬくもりの家の家族会主催で、親睦会を開催いたしました。会員の皆様は会場に到着すると「いい場所ですね」「きれいなところ」とロッジ内をみて感想を話されておりました。
晴天に恵まれ、広々とした湖を背に乾杯しスタートしました。皆で準備したバーベキューは肉類だけでなく、さんまにほっけホタテやカキ、はまぐりなどの魚介類も沢山あり、屋根つきのテラスから、湖を眺めながら頂く新鮮なさかなはその場の雰囲気も加わりとても美味しく頂きました。
これから、春の花見シーズンや夏の花火大会など、様々な機会に大いに利用し楽しみたいと思います。



ホームヘルパーステーション青空
高 橋 恵美子

昨年9月のインフォメーションに『楽晴会ロッジ利用について』のお知らせが載っており、詳細を見ると職員、家族も利用できるとのこと。
早速、他の職員にも話すと『いいね』の返事がありヘルパーと訪問入浴の両スタッフの交流会として利用することにしました。ロッジの場所も事前に確認するために行ってみました。少し遠いなあと感じましたが湖に面していて、夏はもっと楽しめそうだなあと思いました。

交流会は、職員11名と子供5名の計16名が集まり賑やかに始まりました。メニューは、もつ鍋、焼肉、焼きそば、おにぎりも作り、他おやつもたくさん準備しました子供たちは、二階で走り回り、元気良く遊んでいた

ようです。

大勢での利用だったので、鍋やホットプレート等準備が多く大変でしたが、それも皆との楽しい思い出になりました。外は風が強くとても寒い日でしたが、室内は温かく和気あいあいと盛り上がりました。
これから暖かい季節になったら湖畔のテラスでバーベキュー夏は水遊びと楽しみが膨らみます。



こんにちは、三沢訪問看護ステーションです

三沢訪問看護ステーション所長 中村由佳子



当事業所は、看護部門七名、リハビリ部門六名の十三名で構成しています。看護・リハビリ合わせて一日四十件〜五十件、月延利用者数九百名ほどの訪問を行っています。

「人はチームで磨かれる」

今年二月、看護部門、リハしかつた。定期的にやりましょり部門ともに同じユニフォームと提案され採用することになりました。皆が皆と近づこうとしている、その思い、雰囲気は大切にしたいと思っています。同じご飯を食べながら語り合う時間は、素晴らしい時間であるように思います。最近では、利用者様の状態変化に討論する事も多くなり、原因を探ろうと二つになっている光景は、誇らしく思え、チームとして活動していることを実感できます。今後もより専門性を追求し、一つのチームとして活動していきたいと思えます。

人は個性を持った存在です。一人ひとりの個性を活かすためにもお互いの違いを尊重することが大切です。私達は、これまで様々な経験と培ってきた知識、技術をもつて集まっています。一人ひとりが備える特徴を理解し、各々の違いを認めることが大事でありお互いを認め合うことが、一人ひとりのもつ力を引き出す鍵になります。そして、初めてチームとしての成果を上げることができるとは思いません。二カ月に一度Case42でランチミーティングを開催することになりました。昨年、送別会で利用した際にスタッフから「楽



「伝える力」

私達の仕事には、書くこと、聞くこと、話すことの技術を必要とされる部分があります。以前、看護教員をしていた時、記録と報告が苦手な学生がおり指導に困ったことがありました。その時に出会った二冊の本があります。池上彰著『伝える力』「話す」「書く」「聞く」能力が仕事を支える」といいます。「話す」「書く」「聞く」の能力の磨き方を紹介してくる本です。一つだけに特化しているのではなく、連動していることを知り、指導に役立てた記憶があります。

文章力、話し方、聞く姿勢には「その人」が現れることがあります。メール、報告書、電話などの日常業務においても、私達の課題でもあります。「伝える力」を身につけられるよう、自己を磨きながら、皆で一緒に成長していきたいと思えます。



「食べる」の意味

毎日訪問させて頂いているYさん。脳梗塞で倒れ、寝たきりになって六年以上が経ちます。毎日お母さん(妻)が介護をしてくれています。「Yさん」という声かけに笑顔で答えてくれています。誤嚥性肺炎を繰り返すようになり、発熱を何度も繰り返しています。ある日の往診で医師から「もう口から食べることは無理かも」と言われました。しかし、お母さんは「何度も誤嚥性肺炎を繰り返しても口から食べさせたい」といいます。食べてすぐに食べた物を全部吸引しても「食べさせたい」と食べる行為が続いています。「この人、若い頃たくさん食べたの」と訪問する度にお母さんが言います。食べるという行為は、人間にとつ

て生きるために必要なことです。しかし、他にもたくさん意味があることを改めて考えさせられます。食卓を囲んだ楽しい思い出や食を通じてお母さんのYさんへの思いなどたくさん伝わってきます。今日も「今日は何食べたの？」と笑顔で声をかけ吸引するスタッフがいます。長い年月一緒に生活してきた思い出を支える素敵な場面に今日もスタッフが訪問しています。

「問題解決モデルからストレングスモデルへ」

看護教育のカリキュラム上、問題点を抽出する際、問題解決モデルで看護過程を行うよう教育されてきています。問題解決モデルとは、「できない」所に着目しケアしていく考えです。先日、東京へ研修に行かせて頂きストレングスモデルを学んできました。ストレングスとは、「強さ・強み」という意味です。一九七〇年代後半、アメリカでその人のもつストレングスに着目したケアを導入したことが始まりとなっています。日本においては、ソーシャルワークの

「あたたかなサポート」

私達、看護の仕事は、保健師助産師看護師法の中で、「医師の指示のもと」という言葉が謳われています。毎月、訪問看護指示書を発行して頂き、その中で訪問を行う事が義務付けられています。病院では、患者様に異常があればすぐに医師に報告し指示がもら

利用者の変化に気づいた時、観察からアセスメントが始まります。様々な知識と経験が頭の中で一生懸命フル回転です。そんな時私達をあたたかく支えて下さる一本の電話、それが利用者様の主治医の皆様とつながる電話です。電話の奥から聞こえてくる先生の声や看護師長様はじめ、スタッフの皆様の声は、「私達は一人じゃない」と思わせてくれるあたたかい声です。そのサポートがあつて私達は日々、訪問看護師として利用者様を訪問することが出来ます。本当に感謝致します。

私達は、教科書に載っていない数々の教えを利用者様、ご家族様から日々学んでいることを忘れず、二つの訪問を大切にしていきたいと思えます。

他三沢市内、十和田、八戸、六ヶ所、青森のたくさんの方の病院的先生方からサポートしていただいています。ありがとうございます。

医療連携でもお世話になっている 鳴海外科医院の阪中先生



▲岡三沢診療所の亀田先生とスタッフの皆さん

理学療法士

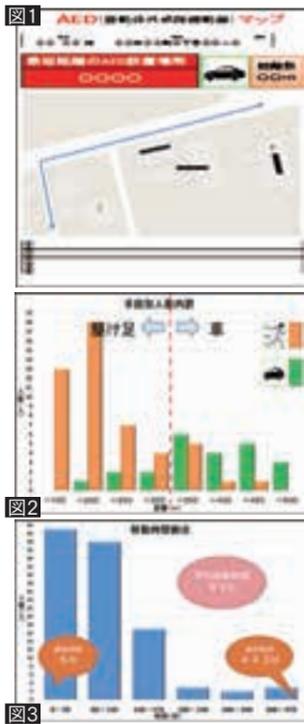
研究発表を終えて

リスク管理の重要性を再認識することができた

研究発表を経験して 三沢訪問看護ステーション 和泉順也

平成28年6月18日から19日、青森県五所川原市にて、第40回青森県理学療法士学会に参加しました。今学会にて、「当事業所版AEDマップの作成」を想定して「」をテーマにポスター発表をさせて頂きました。その結果、学会賞（優秀賞）を受賞することができました。私は今までの人生の中で、賞を頂いたことがなかったのですが嬉しく思いました。

今回の発表に至った研究動機は、以前自身が救命救急の講習に参加させて頂いたことの中で、一次救命処置についての内容があり、自動体外式除



研究内容①

平成28年6月の青森県理学療法士学会では、インターネットで掲載されている「三沢市AED設置MAP」を活用し、AED設置場所を調査しました。そして、当事業所の訪問リハビリテーションをご利用されている方の自宅から最短距離にあるAED設置場所を選択しました。（図1）対象地区を限定し、12名を対象として研究を始めました。そして車と駆け足で実測後、自宅からの最短ルートと移動方法を決定し、AEDマップを作成しました。今回の結果は、車よりも駆け足の方が移動時間・距離を短縮できるルートがあり、車のみでなく駆け足でのルートも確認する必要性を感じました。

研究内容②

そして、平成29年2月に行われた楽晴会研究発表において、「事業所版AEDマップの作成」実測値からみた有用性の一考察」を発表させて頂きました。昨年の青森県理学療法士学会での研究を基に、今回は当会の訪問サービスをご利用されている方104名を対象とし、先行研究よりも人数を多くしました。このうち、車と駆け足のどちらの実測を行ったのは72名、車のみの実測は32名でした。

今回の移動手段別に人数を分けた結果、移動距離が300mまでは、駆け足が車より速い傾向にありますが、300m以上になると、車の方が速い傾向にあることがわかりました。（図2）車を使用した場合、車が走り出すまでに時間がかかるため、300m以下の短距離の場合、駆け足での実測値が最速となる割合が多くみられていました。

今回の全対象者104名を車と駆け足の移動手段を問わず、最速での移動時間を示した、最短時間は6秒、最長時間は443秒（7分23秒）、平均移動時間は83秒（1分23秒）でした。（図3）このことから、

AED設置場所までの移動に時間がかかる方に対するAED運搬方法の検討も必要ことがわかりました。

研究を通じて得たこと、考えたこと

①チームワークの大切さ

平成29年2月に行った研究では、対象者が104名と多くなりました。自宅から最短距離にあるAED設置場所までの経路図が完成後、当事業所のスタッフ全員で実測値の計測を行いました。スタッフには日々の業務で時間に追われている中、協力して頂き感謝しています。今回の研究を事業所のスタッフ全員で完成させたことで、リハビリテーションと看護との連携を強めることができたのではないかと思います。

②リスク管理への再認識

平成28年6月の学会と今回の研究を通して、リスク管理という言葉の重要性を再認識することができました。今までの私はその言葉を、転倒や怪我をさせないという側面で捉えていました。しかし、今回研究を行ったことで、リハビリテーションを実施しているリスク管理の他に、常に起こりうるだろうという状況を想定し、それに対する準備を事前に行っておくこともリスク管理として重要であることを学びました。

今後は、看護師とお客様に対する情報交換など訪問スタッフとの連携を密にしていこうと、AEDマップを訪問業務に使用することを含め、重篤な場面を想定した連絡方法などをまとめたマニュアルを作成することで、訪問業務におけるリスク



成年後見センター三沢

介護受付センター 小笠原 聡

○成年後見制度とは？

成年後見制度とは、平成十二年に介護保険法と同時に施行され、車輪の両輪とも言われています。それは、措置から契約へと大きな転換期を迎えた福祉業界において、契約等の法律行為を行うために必要不可欠な制度だったためです。

成年後見制度については、同制度は、判断能力が不十分な方について、裁判所が補助人・保佐人・後見人（以下、後見人等）を選任し、後見人等が本人に同意又は代理することで、財産管理や契約等の法律行為を行います。また、後見人等については、親族後見人と第三者後見人に大別されます。その内、第三者後見人は、弁護士や司法書士、社会福祉士が担う専門職後見人、専門の養成研修を修了した一般市民が行う市民後見人、そして社会福祉法人やNPO法人等が行う法人後見に分類されます。

○運営状況等

現在楽晴会では、法人後見を行っており、その窓口及び実務



○第一回成年後見運営委員会 後見人等を受任すると、年一回裁判所への報告義務がありますが、それ以外にも第三者に事業運営状況を報告すること、その公平性・透明性等を確保することを目的に、平成二十八年四月十三日、第一回成年後見委員会を開催いたしました。構成員は、弁護士一名、学識経験者一名、行政二名、保健師一名、看護師一名、計六名です。年一回開催する予定です。

(仮称)世田谷希望丘ホーム新築工事

工事計画

平成二十八年十一月二十五日、入札結果は東京都中央区新川の松井建設株式会社に決定しました。



(工事名)

(仮)世田谷希望丘ホーム新築工事

(施工地)

東京都世田谷区船橋6-28-4

(工期)

平成二十八年十二月十二日～平成三十年一月三十一日

(敷地面積) 三千六百三・七一㎡

(建築面積) 二千七十一・三七㎡

(延床面積) 七千五百九三・三二㎡

(構造) 鉄筋コンクリート

地下0階 地上5階

(総工費) 二十一億五、八九二万円



Cafe42新メニュー



焼きハンバーグをお好みのソースで!

青森県産の材料にこだわりカリッとジューシーに焼きあげた「フォーティツ-焼きハンバーグ」



単品 ¥720 (税込) ご飯のセット ¥1,100 (税込) パンのセット ¥1,100 (税込)



チキンローストをお好みのソースで!

青森県下北半島のブランド鶏「桜姫鶏」をカリッと焼きあげました!



単品 ¥800 (税込) ご飯のセット ¥1,180 (税込) パンのセット ¥1,180 (税込)

平成二十八年年度楽晴会職員研究大会結果

日時 平成二十九年三月十四日

場所 グランヒルつつたや

職員研究発表の部

最優秀賞

栄町ぬくもりの家

発表内容 「職員の意識を変えてみたら... 見えてきた課題」

優秀賞・増田賞

ホームヘルパーステーション青空 訪問入浴サービスステーション青空

発表内容 「やったー!!完治だ ノルウェー疥癬なんてこわくない」

審査委員長賞

三沢老人ホーム 介護力向上委員会

発表内容 「出来ない」から「出来る」へ 自立の基盤は水分から

敢闘賞

大町児童デイサービスセンターひかり

発表内容 「避難訓練をわかりやすく 安全で安心できる ひかりを目指して」

三沢訪問看護ステーション

発表内容 「事業所版AEDマップの作成 実測値からみた有用性の一考察」

緑ヶ丘児童デイサービスセンターひかり

発表内容 「自立活動を促す支援 わかると楽しい」

各団体及び個人賞の部

優秀賞部門責任者賞

晴ヶ丘老人ホーム

相談員 月 舘 健 司

サブリーダー優秀賞

三沢介護支援センター ケアマネジャー 赤 沼 英 子

松原ぬくもりの家 ユニトリリーダー 古 澤 江 梨

ルーキー優秀賞

緑ヶ丘児童デイサービスセンターひかり 指導員 山 崎 愛 理

アメーバ賞優秀賞・特別賞

栄町コラボケアセンター 車返団地コラボケアセンター



優秀賞・増田賞 ホームヘルパーステーション青空 訪問入浴サービスステーション青空



職員研究発表の部 最優秀賞 栄町ぬくもりの家



審査委員長賞 三沢老人ホーム 介護力向上委員会

功労表彰紹介



平成二十八年十月二十八日、三沢市民福祉大会において、監事、評議員、職員、ボランティアの6名の皆様を受賞されました。

★社会福祉団体・法人役員 十年以上功労表彰

監事 畑 山 篤
評議員 藤 田 興 治

★福祉施設勤務十五年以上(職員) 松園GH、デイ所長 一 戸 大 蔵

晴ヶ丘 栄養士 野 田 めぐみ
三沢デイ 看護職員 大 鳥 友 子

★福祉活動協力者十年以上 (ボランティア) 根 本 幸 子

御寄贈御礼

平成28年6月15日～平成29年1月31日

- 鳥谷部 様 (冷蔵庫 一台)
- 洗濯機 一台
- 電子レンジ 一台
- ネイバーフットチャーター様 (テレビ 一台)
- 内山 様 (車いす 一台)

株式会社ユニバーズ様より緑ヶ丘児童へ、iPadとDVDプレイヤーを頂きました。ありがとうございます。



※その他、多数の皆様より当会への温かい御支援・御協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。今後とも、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

編集後記

担当者が定まらずに一回パスしてしまいました。うーん、この情報の時代に申し訳ありません。今回はナースとセラピストの特集です。いかがでしたか? (理)

たくさんの方々のおかげで、無事61号うとうとびあ発刊することが出来ました。大変ありがとうございました。 (福)